舞台用脚本（６０分）

３人のKAZUYA

桐乃さち

人物表

三上和也（25）　カフェ店員
一ノ瀬茉莉（28）　主婦
一ノ瀬和哉（32）　弁護士
新田一矢（28）　運送業
医者

あらすじ

三上和也は、恋人の茉莉にプロポーズをする。しかし、茉莉には夫の一ノ瀬和哉、更に新田一矢と言う恋人がいた。茉莉は複数人と愛情関係を結ぶ、ポリアモリーだった。

茉莉が妊娠していることが発覚し、三人の男は対立する。三上は茉莉に、自分のことだけを見て欲しいと懇願する。茉莉は一ノ瀬、新田と共に自分を愛して欲しいと言う。三上はその願いは受け入れられなかった。

三上は、茉莉の幸せを願いつつ、茉莉の元を去る。

〈1〉　軽井沢　石の教会

舞台の下手側に石橋がある。
上手から、目隠しをした一ノ瀬茉莉（28）と、茉莉の手を引く三上和也（25）が登場する。

茉莉「ここ、どこ？」
三上「どこだと思う？」
茉莉「東京、じゃないよね？」
三上「うん」

葉っぱのこすれる音
鳥の鳴き声

茉莉「森？　分かんない。ねえ、もういい？」
三上「ちょっと待って」

三上、茉莉の肩を持って向きを変える。

三上「よし、うん、いいよ」

茉莉、目隠しを取って辺りを見回す。

茉莉「石の教会！？　ここ、軽井沢なの！？」

三上「へへへ、びっくりした？」

茉莉「ううん、嬉しい！　来たかったの！」

和也「茉莉ちゃん、この教会が大好きだって言ってたもんね」

茉莉「そう！　この雰囲気が好きなの！」

茉莉が周囲を見回している隙に、三上、上手から舞台袖に退場する。

茉莉「だけど、どうして内緒で連れて来たの？あれ？　和也君？」

軽快な音楽

三上、上手から陽気に踊ながら登場する。三上、しばらく踊り、スマホを操

作して音楽を止める。

三上「ごめん、時間が無くて一人フラッシュモブになっちゃった」

三上、茉莉の前に跪く。

三上、ポケットから小さな箱を取り出し、開ける。ダイヤの指輪がある。

三上「茉莉ちゃん、結婚して欲しいんだ」

茉莉「……結婚？」

三上「僕達、まだ付き合って３ヶ月だし、僕は年下で頼りないかもしれない。だけど、茉莉ちゃんのこと本当に本当に大好きなんだ。絶対、幸せにする。だから…」

茉莉、三上に抱きつく。

茉莉「嬉しい」

三上「……オーケーなの？」

三上、茉莉の左手に指輪をはめる。

三上「茉莉ちゃん、結婚する時は地元にある石の教会で式を挙げたいって言ってたよね」

茉莉「私、そんなこと言った？」

三上「言ってたよ！　だからプロポーズもここでしたかったんだ」

茉莉「うん、軽井沢は好き」

茉莉、石橋によじ上る。

三上「茉莉ちゃん？」

茉莉「風が気持ちいい」

三上「そんな所に登ったら危ないよ」

茉莉「大丈夫。子供の時から来てるもん」

三上「ねぇ、茉莉ちゃんのご両親にはいつ頃ご挨拶に行ったらいいかな？」

茉莉「挨拶？」

三上「僕達、付き合ってることもまだ報告し

てないでしょ？」

茉莉「うん」

三上「いきなり結婚なんて言ったら、ご両親も驚いちゃうかな」

茉莉「結婚っていいね。誰かとずっと一緒にいる約束をするなんて素敵」

三上「ずっと一緒にいるよ」

茉莉「だけど人の気持ちって瞬間的で、永遠じゃないんだよね」

三上「茉莉ちゃん？」

茉莉「私、まだ和也君に話してないことが……」

強い風が吹く

茉莉、両手を広げ、背中から石橋の向こう側に落ちる。

三上「茉莉ちゃん！」

暗転

救急車の音
バイクのエンジン音

〈2〉病院　個室

明転

下手にドア・廊下がある。
上手には窓がある。
舞台上にスクリーンがある。
ベッドに、点滴をした茉莉が寝ている。
廊下に三上と医者が立っている。

三上「石段の上から落ちたんです。頭から」
医者「えぇ」
三上「それまで普通にしゃべってたのに。あの、彼女は大丈夫なんでしょうか」
医者「命に別状はありませんよ」
三上「じゃあ、頭を打ってるとか？」
医者「詳しいことはご家族じゃないと話せな

いんです」

三上「僕達結婚する予定なんです！」

医者「入籍はまだですよね？」

三上「えぇ、そうですけど」

医者「では、すぐにご家族の方に連絡を取っていただけますか？」

医者、下手から退場する。

三上、ドアを開けて病室に入る。

三上、茉莉の手を握る。

三上「茉莉ちゃん、しっかりして。あぁ、こんなことなら、もっと早く茉莉ちゃんの家族に挨拶しておけば良かった！」

三上、茉莉のバッグを見つめる。

三上「勝手にごめんね」

三上、バッグの中を探る。

三上、茉莉のスマホを取り出す。

三上「スマホ、指紋で開くかな。いや、だけど、いいのかな。こんな風にプライベートを勝手に……」

三上、自分の頬を叩く。

三上「和也、しっかりしろ！　迷ってる場合じゃないだろ！　お前は茉莉ちゃんの夫になるんだろ！？　今、茉莉ちゃんを守れるのはお前しかいないんだぞ！」

三上、茉莉の指で指紋認証する。

三上「えーと、なるべく余計な情報は見ないようにしてっと……。えーと。うん！？　なんだこれ？　kazuya1、kazuya2、kazuya3？」

スクリーンにトーク画面が映し出され

る。

三上「もしかして、このうちの誰かが茉莉ちゃんの家族だったりしないかな？」

三上、スマホを耳に当てる。

下手から新田一矢(28)が登場する。新田、バイクのヘルメットを持っている。

新田のスマホが鳴っている。新田、ドアを開けて病室に入って来る。

新田「それ以上はやめとき。プライベートの侵害やで」

三上「うわ！？」

新田「びっくりさせてすまんな」

新田、茉莉に近づいて顔を覗き込む。

新田「茉莉、大丈夫か？　怪我したんか？」

三上「あの、ど、どちら様ですか？」

新田「そっちこそ、誰やねん！？」

三上「ぼ、僕は、彼女の恋人ですよ。って言うか、婚約者です！」
新田「はぁ！？　名前は？」
三上「三上和也です！　そ、そっちは誰ですか」
新田「俺は新田一矢。茉莉の彼氏や」
三上「は？　はぁ！？　はぁ！？　彼氏！？　あなたこそ、何言ってるんですか？」
新田「そっちこそ何やっとるんや。お前が茉莉を勝手に連れ回しとるから、心配になって後をつけて来たんや」
三上「つ、つけてきた！？　ど、どこから？」
新田「東京の茉莉の家からや。バイクで追って来たんや」
三上「バイクで！？」
新田「お前、あんな所で何しとったんや」

新田、三上が踊っていたダンスを真似して踊って見せる。

新田「けったいな踊りなんか踊りやがって」
三上「け、けったいって。サプライズですよ！」
新田「サプライズゥ？」
三上「僕、茉莉ちゃんにプロポーズしたんですよ！　フラッシュモブプロポーズです。知らないんですか？」
新田「なんやて？　フラッシュモブ？」
三上「ほら！　指輪、してるでしょ？」

三上、茉莉の左手を新田に見せる。
新田、茉莉の指から指輪を取り、床に投げ捨てる。

新田「こんなもん！」
三上「あ！　何するんですか！（拾う）」
新田「そうか、分かった。三上君やったな。君が茉莉の男やってことは認めたるわ」
三上「あの、あなたは何なんですか？」
新田「俺は三上君よりも茉莉と親しい間柄や」
三上「もしかしてご家族ですか？」

新田「家族やない。三上君、茉莉の家族に連絡取りたいんやろ？」
三上「はい」
新田「そんなら、茉莉が倒れた時にすぐ、一ノ瀬さんに電話しておいたで」
三上「一ノ瀬さん？」
新田「一ノ瀬和哉さんや。知っとるやろ」
三上「知りません。誰ですか？」
新田「三上君、ほんまに何にも知らんのやな。なんや、かわいそうになってきたわ」
三上「かわいそうって」
新田「俺からはよう話さん。一ノ瀬さんが来たら聞き。それにしても。くっくっく」
三上「な、何ですか」
新田「俺たちの名前」
三上「名前？」
新田「気づかんか？　全員かずやや」
三上「あぁ、そういえば……。僕が三上和也、あなたが新田一矢さん、これから来る人が一ノ瀬和哉さん、でしたっけ。本当ですね」

新田「茉莉もセンス良いっちゅうか、悪いっちゅうか」
三上「はあ」
新田「なんや、笑えて来るな」

笑っている新田。怪訝な顔の三上。
下手から一ノ瀬和哉(32)が登場し、病室に入って来る。

新田「一ノ瀬さん！」
一ノ瀬「あぁ、すみません」
新田「早かったですね。すぐ分かりましたか」
一ノ瀬「えぇ。ご迷惑をおかけして」
三上「あ、あの。初めまして」
一ノ瀬「君は？」
三上「僕、三上和也って言います」
一ノ瀬「どうも、一ノ瀬です」

一ノ瀬、三上に名刺を渡す。

三上「弁護士さん、なんですね」
一ノ瀬「茉莉は？」
三上「命に別状はないそうです。だけど、詳しい病状はご家族にしか言えないって言われてしまって」
一ノ瀬「そうですか。では（退室しようとする）」
三上「あの！　一ノ瀬さんは茉莉ちゃんの……？」
一ノ瀬「はい？」
新田「このお坊ちゃん、状況が何にも分かってないらしいんや。一ノ瀬さん、こいつが軽井沢で何をしとったか知ってますか」
一ノ瀬「いや」
新田「茉莉にプロポーズしたそうですわ」
一ノ瀬「プロポーズ？」
新田「そうです。どうも、茉莉のこと何にも知らんで付き合っていたらしいんです」
三上「はぁ。ちょっと状況が見えないんですが」

一ノ瀬「私は、茉莉の夫です」
三上「えええ！？」
　　三上、腰を抜かして椅子から落ちる。
三上「お、お、お、夫って？」
一ノ瀬「ポリアモリーって知ってるかな」
三上「ポリアモリー？」
一ノ瀬「検索してみたまえ。すぐに出て来る」

　　三上、スマホで検索する。
　　スクリーンに「ポリアモリーとは」と
　　書かれたページが表示される。

三上「ポリアモリーとは、複数のパートナーたちと互いの合意のもとで交際し、精神的にも強いつながりを築くこと……」
新田「つまり、一ノ瀬さんは茉莉の夫で、俺は茉莉の彼氏って訳や」
三上「はぁ？」
新田「世の中にはそういう考えもあるんや、

お坊ちゃん」
三上「い、意味が分からない」
一ノ瀬、椅子に座る。
一ノ瀬「医者を呼ぶ前に少し説明する必要がありそうだな。あ、お二人も座って下さい」
新田「ほら、三上君も座らんかい」
三上「僕、何が何だか」
新田「いいから、ゆっくり話そうやないか。俺らは三上君の敵やないで」
三上「つ、つまりあなたは」
新田「新田や」
三上「新田さんは、茉莉ちゃんの」
新田「もう1年は付きおうとる」
三上「だったら僕は、茉莉ちゃんに二股かけられてたってことですか！？　茉莉ちゃんはそんな子じゃない！」
新田「まぁまぁ、落ち着かんかい。俺と茉莉は幼馴染や。と言っても、茉莉は小学5年生の時に家の都合で東京に引っ越してし

もうたから、それ以来会ってなかったんやけどな。それが、一年前に東京で再会したんや」

三上「あなたが茉莉ちゃんに会いに来たんですか？」

新田「いや、偶然や。俺は今でも大阪に住んどって、たまたま、東京に来た時にばったり会うたんや。そりゃあ驚いたで」

三上「ちょっと待って！　茉莉ちゃんの地元は軽井沢ですよね？」

新田「はぁ？　大阪やで」

三上、ぽかんとする。

一ノ瀬「私達は3年前に結婚した」

三上「結婚って……」

一ノ瀬「事実だ」

三上「この指輪を見て下さい！　今日、茉莉ちゃんは僕のプロポーズを受けてくれたんですよ！？」

一ノ瀬「茉莉がご迷惑をおかけしたようで」
三上「……」
一ノ瀬「私は東京で弁護士事務所を開いているんだが、そこに茉莉がやってきたのが最初だった」
三上「茉莉ちゃんが、弁護士事務所に……？」
一ノ瀬「茉莉はその頃、芸能活動をしていたんだ」
三上「芸能活動！？」
一ノ瀬「アンダーグラウンドだが、一部の熱狂的なファンに絶大な人気があったらしい。ファンとのトラブルの相談だよ」
三上「ぜ、全然知りませんでした」
一ノ瀬「それが縁で、私達は交際が始まってすぐに結婚の話が出た」
三上「え、ちょっと待って下さい。あはは、信じられないな。だって、茉莉ちゃんは独身だって言ってましたよ？」
新田「茉莉が、ほんまにそう言ってたんか？」
三上「はっきり言われたかどうかは覚えてま

せんけど、でも、付き合っている人が結婚しているかどうかなんて、普通気にします！？」
新田「三上君が茉莉を迎えに行っていた、でっかい家があるやろ？」
三上「はい」
新田「あれは一ノ瀬さんが建てた家や」
三上「え！？　実家じゃないんですか！？」
新田「あの家には、一ノ瀬さんと茉莉しか住んでないで」
三上「嘘だ……。絶対、信じない！」
新田「戸籍証明を取って来て見せる訳にはいかんしなぁ」
三上「……あの、結婚式は？」
一ノ瀬「結婚式？　あぁ、挙げたよ」
三上「もしかして……」

一ノ瀬、スマホを取り出して三上に見せる。
スクリーンに医師の教会の前で微笑む、

ウェディングドレス姿の茉莉と、一ノ瀬が映し出される。

三上「(唖然とする) 石の教会だ……」

新田「今日、三上君と茉莉が行ってた所やな」

三上「茉莉ちゃん言ってたんです。軽井沢の石の教会で結婚式を挙げるのが、子供の頃からの夢だって」

新田「その夢はもう一ノ瀬さんと叶えとったっちゅう訳や」

三上「……嘘だ」

一ノ瀬「茉莉にも困ったものだ」

三上「……あの、僕、茉莉ちゃんと不倫してたってことになるんですか？」

新田「世間的にはそうやな」

三上「僕、一ノ瀬さんに訴えられることになるんでしょうか？」

一ノ瀬「いや、そんなことはしないよ」

新田「そうや。そやったら俺かって、とっくに茉莉とも別れさせられとるはずやろ？」

三上「え？　ってことは、あれ？」
新田「混乱するのも無理ないで」
一ノ瀬「すぐには理解出来ないかもしれないが、私は経済面、新田君は精神面で、茉莉を支えているんだ」
新田「役割分担っちゅうやつやな。俺は、一ノ瀬さん公認で茉莉と付き合っとるんや」
三上「どうしてそんな……？」
一ノ瀬「茉莉の病気の事を話そうか」
三上「病気？」
一ノ瀬「茉莉は精神的な病気なんだ。愛着障害と言うらしい。聞いたことないかい？」
三上「いえ……」
一ノ瀬「私も、茉莉が自殺未遂をした時に、初めて知ったんだが」
三上「自殺未遂！？」
一ノ瀬「私達が結婚して1年が経った頃だ。茉莉が複数の男性と関係を持っていることが分かった」
三上「え！？」

一ノ瀬「私は怒り狂ったよ。まさか、ずっと騙されていたなんてね。すぐに茉莉に離婚届を書かせたんだ」
三上「その時は離婚しようとしたんですね」
一ノ瀬「あぁ、だけど、市役所に向かっている最中、茉莉は車から飛び降りて、自殺を図った」
三上「えぇ！？」
一ノ瀬「何とか命は助かったけどね」
新田「その時に精神科医に診せたそうや」
一ノ瀬「茉莉は、倫理観や状況を無視して、人との関係において極度にアンバランスな反応を示してしまうんだ」
三上「極度にアンバランスな反応……？」
一ノ瀬「茉莉は子供の頃、親から安定した愛情を注がれずに育った。それが原因で、自分の周りの人間、全てから愛情を注がれないと満足出来ない人間になったんだ」
三上「そ、それで、茉莉ちゃんとは？」
一ノ瀬「茉莉とは離婚しなかった。病気なら

ば治療をすれば治ると思ったんだ。だけど、茉莉はそれからも変わらなかった」

三上「茉莉ちゃんはずっと不倫し続けたってことですか？」

一ノ瀬「あぁ」

三上「い、一ノ瀬さんはそれで、どうしたんですか！？」

一ノ瀬「私は早々に諦めたよ」

三上「諦めた？」

一ノ瀬「茉莉をそういう人間だと、受け入れることにしたということだ」

三上「う、受け入れられるものなんですか？」

一ノ瀬「私はどうも、普通の人間よりも情のようなものが薄いらしい」

新田「そんな時に、茉莉と俺が再会したっちゅう訳や」

一ノ瀬「新田君と再会して、茉莉は明るくなったよ。精神的に安定したんだろうな。だから私は、茉莉を新田君に預けることにしたんだ」

三上「不倫を黙認していたってことですか……」
一ノ瀬「私にとってはその方が都合が良かった」
三上「新田さんは、それでいいんですか？」
新田「俺は、茉莉が俺を必要としてくれるなら、それでええ」
三上「おかしいよ……」
一ノ瀬「人から見たら理解出来ないだろうね。とにかく、そういう風に私達はやって来たんだ」
三上「どうして離婚しないんですか？」
一ノ瀬「離婚？　離婚か。今は考えていないね。と言うよりは、特に離婚する必要を感じていないという所かな」
三上「そんな……」
一ノ瀬「さて、説明は終わりだ。私は医者を呼んで来る」
三上「ちょっと、待って下さい」
一ノ瀬「君が納得いかないなら茉莉とは別れ

ればいい。付き合いたければこのまま付き合っていてもいい。君の自由だよ」

三上、唖然として一ノ瀬を見つめる。

一ノ瀬、下手から退場する。

三上「ちょ、ちょっと、ついていけないな」

新田「すぐに理解してもらおうなんて思ってないで」

三上「新田さんは、これでいいんですか？」

新田「あん？」

三上「これからも、愛人を続けるってことですか？」

新田「世間的にはそう呼ばれるかもしれんけどな、俺は愛人やなんて思ってない」

三上、茉莉の手を握る。

新田「おい、何しとるんや」

三上「僕、茉莉ちゃんの目が覚めたらもう一

度結婚を申し込みます」
新田「君、話聞いとったんか？　茉莉は一ノ瀬さんと結婚しとんのや」
三上「僕は茉莉ちゃんがいい加減な気持ちで僕と付き合っていたとは思えないんです」
新田「俺かて、いい加減やなんて思ってない」
三上「僕は耐えられません！　こんなの！」
新田「ポリアモリーは茉莉の希望でやってることや。茉莉を独り占めしようとしたってそれは無理な話やで」
三上「そんなの、やってみないと分からない」
新田「やめとき。自分も茉莉も傷つけるだけや。茉莉は難しいで。恋の熱に浮かされとるだけやったら、黙って手引きや」
三上「僕は真剣だ！」
新田「誰かって最初はそうや。そやけど……」
三上「何ですか？」

スマホの着信音
新田、ポケットからスマホを取り出す。

新田、画面を確認して切る。

三上「……出ないんですか？」

新田「うん、後でかけ直すわ。それにしても、茉莉はなんで三上君と付き合いだしたんやろうな？」

三上「どういう意味ですか」

新田「気悪うせんといてや。茉莉は、一ノ瀬さんと俺以外とは付き合わへんって言っとったんや。それはちゃんと守っとった」

三上「そりゃあ、誰だって思いがけず誰かを好きになることだってあるじゃないですか」

新田「そんな単純な話なんかなぁ？」

医者と一ノ瀬が下手から登場する。

医者「まだ、目が覚めませんか？（茉莉の脈を測る）うん、大丈夫そうだな。どなたがご家族ですか？」

一ノ瀬「私です」
医者「別室でご説明を」
一ノ瀬「いえ、ここにいる人間はみんな彼女の身内のようなものですから、ここで話してもらって大丈夫ですよ」
医者「そうですか？　では。一ノ瀬さんは妊娠されているようです」
一ノ瀬・三上・新田「え！？」
医者「まだ三カ月です。ご本人もお気づきじゃないかもしれませんね。子供は無事です。詳しくご説明しましょうか」
一ノ瀬「……いえ、後で伺います」
医者「そうですか。では、何かあったら呼んでください」

医者、下手から退場する。
三上と新田と一ノ瀬、顔を見合わせる。

新田「妊娠、やって？」
三上「だ、誰の子供ですか……？」

一ノ瀬「……」

一ノ瀬、背広の内ポケットから書類を取り出してベッドに置く。

新田「これ、離婚届やないですか！」

三上「え？」

一ノ瀬「これから先は、君達の好きにしてくれ。私は手を引く」

新田「どういうことですか」

一ノ瀬「茉莉は、結婚当初から子供を欲しがっていた」

新田「そうやったんですか？」

一ノ瀬「それを許さなかったのは私だ」

三上「どうしてですか」

一ノ瀬「どうして？　子供を持つ、持たないの問題で君に答える義務はないよ」

三上「茉莉ちゃんは、普通の家庭を作りたかったんじゃないですか？」

一ノ瀬「普通の家庭なんてこの世にあるの

か？」
三上「一ノ瀬さんは冷たい！　子供が欲しいって言っている茉莉ちゃんを、そんな風に冷たく切り捨てたんですか？」
一ノ瀬「夫としての義務は果たしている」
三上「義務とかそう言うことじゃないですよ！」
一ノ瀬「君にどう思われようと構わないよ。子供のことは二人で決めてくれ。もし支援が必要なら金銭面の協力はする」
三上「逃げるんですか！？」

一ノ瀬、下手から退場する。

三上「ちょっと！」
新田「三上君、言いすぎやで」
三上「だって、あの人…！」
新田「一ノ瀬さん、自分は父親やないって分かってるんやないかな」
三上「……」

新田「そうやとしたら、さすがに辛いで。とにかく今は茉莉のことを一番に考えな。俺、ちょっと一ノ瀬さんの様子見て来るわ」
三上「新田さん！」
新田「なんや」
三上「新田さんは、これからも愛人の立場に甘んじるんですか？」
新田「あん？」
三上「どうして茉莉ちゃんを、一ノ瀬さんから奪わなかったんですか？」
新田「奪うて（笑う）」
三上「新田さんは結局、責任を負うのが怖いだけじゃないか」
新田「何やて？」
三上「何だかんだ言って、茉莉ちゃんと本気で向き合う覚悟が無いんだ。責任は一ノ瀬さんに丸投げして、自分はいいとこだけ取って行こうって……」
新田「黙って聞いてれば！　このガキ！」

新田、三上の胸ぐらを掴む。

三上「殴るなら殴れよ！　その代わり、茉莉ちゃんは僕がもらう！」

新田「もらうって何や！　茉莉は物やないんやぞ！」

三上「茉莉ちゃんを物扱いしてるのはどっちだよ！？　茉莉ちゃんは人形じゃない！　生きてるんだ！　人間は生きている限り、成長したり変わったりしていくものなんだ！」

新田「おんどりゃ！　何も知らんくせに！」

三上「僕は茉莉ちゃんとこれからも生きていきたい！　子供を産んで、育てて、家族を作っていくんだ！　一ノ瀬さんにも新田さんにも出来なかったことを、僕がやってやる！」

新田、三上を殴りつける。新田、顔を覆ってうずくまる。

三上「……気が済みましたか？」
新田「三上君、すまん。立てるか？」
三上「僕が言ったこと、間違ってますか？」
新田「分からん。なんや頭が混乱しとんねん。正直言って、俺……。茉莉は俺がいれば満足しとると思っとったから。あーあかん！なんやごちゃごちゃするわ。ちょっと、頭冷やしてくるわ」

新田、下手から退場する。
三上、ベッドに腰かけて茉莉の顔を見つめる。三上、ポケットから指輪を取り出して茉莉の指にはめる。

三上「この指輪、茉莉ちゃんのことを考えて選んだんだ。気に入ってくれたのか、聞けば良かったな。茉莉ちゃん、誰かとずっと一緒にいる約束をするなんて素敵だって言ったね。僕は茉莉ちゃんと一緒にいるよ」

三上、茉莉に口づけをする。

茉莉「う、うーん」

三上「茉莉ちゃん！？」

茉莉「和也君？」

三上「茉莉ちゃん、大丈夫！？」

三上、離婚届をポケットに入れる。

茉莉「え？　ここ、どこ？」

三上「病院だよ！」

茉莉「病院？」

三上「茉莉ちゃん、石の教会に行ったの覚えてる？」

茉莉「教会……。軽井沢の？」

三上「そう！　そこで、石段から落ちたんだよ！」

茉莉「……」

三上「茉莉ちゃん、気絶して救急車で運ばれたんだよ？」

茉莉「嘘。私、怪我したの？」
三上「ううん、怪我はしてない。大丈夫だよ」
茉莉「和也君、ずっと私についててくれたの？」
三上「うん……」
茉莉「ありがとう」
三上「あのね、茉莉ちゃん。一ノ瀬さんと新田さんも来てるんだよ」
茉莉「え」
三上「二人に、茉莉ちゃんのこと聞いたよ」
茉莉「ごめんなさい。私ね、何回も言わなきゃ、言わなきゃって思ってたの。だけど」
三上「僕、茉莉ちゃんのこと何にも知らなかったんだね」

三上、茉莉の左手を取り指輪を見せる。

三上「これ、覚えてる？」
茉莉「うわぁ、きれい。ダイヤ？」
三上「うん、そうだよ。小さいけど、僕、一生懸命バイト代貯めて、買ったんだよ。ど

れが茉莉ちゃんに似合うかなって……」
茉莉「和也君？」
三上「ううん。茉莉ちゃんが起きてくれて嬉しいんだ。僕、茉莉ちゃんにプロポーズしたんだ？　覚えてる？」
茉莉「うん。ダンス、かわいかった」
三上「茉莉ちゃん！　一ノ瀬さんと新田さんが戻ってきたら、言って欲しいんだ」
茉莉「何を？」
三上「僕と結婚するって！」
茉莉「結婚？」
三上「そう、茉莉ちゃん、驚かないで聞いて。茉莉ちゃん、子供が出来たんだよ」
茉莉「子供？」
三上「そう！　茉莉ちゃん、知ってた？」
茉莉「知らなかった」
三上「……どう？」
茉莉「嬉しい……」
三上「まだ、三カ月だって！」
茉莉「……ここに赤ちゃん、いるの？」

三上「僕と茉莉ちゃんの子供だよ」
茉莉「え？」
三上「僕達の子供なんだよ！」
茉莉「違うよ？」
三上「え？」
茉莉「この子は和也君の子供じゃない。みんなの子供なの」
三上「みんなの？」
茉莉「うん。みんなで育てるの」
三上「みんなって？」
茉莉「和哉さんと、新田君と、和也君と、私」
三上「茉莉ちゃん……？」
茉莉「素敵でしょ？」

茉莉、首をかしげる。下手から一ノ瀬と新田が登場する。一ノ瀬と新田、ドアの前で立ち止まる。

三上「……茉莉ちゃん、僕のこと好き？」
茉莉「好き！」

三上「茉莉ちゃんは三人の中で、誰が一番好きなの？」
茉莉「そんなの、考えたこともなかった」
三上「じゃあ、考えて！　茉莉ちゃん。僕、茉莉ちゃんと結婚したいんだ」
茉莉「うん」
三上「茉莉ちゃん、僕と結婚してくれる？」
茉莉「それは、和哉さんに相談してみないと」
三上「茉莉ちゃん、もし僕と結婚してくれたら、僕は茉莉ちゃんを絶対に幸せにする」
茉莉「嬉しい」
三上「じゃあ、その子は茉莉ちゃんと僕の子供だね？」
茉莉「ううん。この子は、みんなの子供」
三上「茉莉ちゃん。どうして？　どうして僕だけを見てくれないんだ」
茉莉「見てるわ」
三上「今だけじゃなくて、僕と一緒にいない時も、いつも僕だけを見て欲しいんだ！」

三上、頭を抱えて天を仰ぐ。
ドアの外にいる一ノ瀬と新田、顔を見合わせる。

三上「茉莉ちゃんの心の中には一ノ瀬さんと新田さんがいるんだね」
茉莉「うん」
三上「だけどね、みんなの子供にするなんて、無理だよ」
茉莉「え？」
三上「一ノ瀬さんが、これを置いて行ったよ」

三上、離婚届を取り出す。

茉莉「これ……」
三上「子供のことは僕と新田さんで決めてくれって。自分には関係ないって」
茉莉「……」
三上「これでもまだ、みんなで子育てしたいって思える！？　一ノ瀬さんは、あっさり

茉莉ちゃんを見捨てたんだよ！？」
茉莉「嘘」
三上「本当だよ。一ノ瀬さんは茉莉ちゃんのことを愛してなんかいない！」
茉莉「……」
三上「新田さんだってそうだよ！　茉莉ちゃんのことが本当に好きだったら、どうして茉莉ちゃんと結婚しようとしないの？」
茉莉「結婚する必要なんてないもの」
三上「違う！　茉莉ちゃんのことを本気で愛していないからだよ！」
茉莉「……」
三上「茉莉ちゃん、よく考えてみて。茉莉ちゃんを一番愛しているのは誰だと思う？」
茉莉「私、みんなで一緒にいたいの。それだけなの」
三上「無理だよ。少なくとも僕には無理だ」
茉莉「分かった」

茉莉、点滴を外して、ひらりと窓枠に

飛び乗る。

三上「茉莉ちゃん！」

一ノ瀬、新田、部屋に飛び込んでくる。

一ノ瀬「茉莉、やめろ！」

新田「茉莉、そっとこっちに来るんや」

茉莉「だって、みんなで一緒にいるのは無理なんでしょ？」

新田「茉莉、何も変わらへん！　俺はこれからも一緒や！」

茉莉「嘘。新田君、私から離れようとしてる」

新田「なんやて？」

茉莉「最近、全然会いに来てくれないし」

新田「それは、仕事が忙しくて」

茉莉「一緒にいても上の空だし」

新田「そんなことない！」

茉莉「嘘つかないで！」

新田「茉莉、ほんまのほんまに、本当の事が

知りたいんか？」
茉莉「(頷く)」
新田「……茉莉の言う通りや。最近、大阪に俺のことを好きやって言うてくれる子がおるねん」
三上「新田さん！？」
新田「まだ付き合ってはおらへん。そやけど、何回か二人で会うたりしとる」
三上「もしかして、さっきの電話って」
新田「あぁ、そうや。その子からの電話やった。俺、誰かと普通に付き合って、結婚して、子供が出来て。そんな生活もあるんやなって想像したんや。正直、三上君に言われたこと図星やったわ」
三上「僕の言ったこと？」
新田「人間は生きている限り、成長したり変わったりしていくものなんやっちゅうやつや。どきっとしたわ。俺、ほんまは頭の中ぐらぐらしとってん。いつの間にか、茉莉と一緒におる理由を探しとった」

茉莉「……」
新田「そやけど、茉莉が妊娠しとるって聞いて、正直安心したんや。茉莉の子が自分の子供かもしれんって思ったら、やっぱり嬉しかったんや。これで、もう迷わんですむって。茉莉、ごめんな」
茉莉「これからも一緒にいてくれるの……？」
新田「あぁ、俺は茉莉から離れん。一生や」

新田、茉莉に手を伸ばす。
茉莉、窓枠から降りてこない。

一ノ瀬「茉莉！　降りて来い」
茉莉「和哉さん、私と離婚したいの？」
一ノ瀬「違う！　そうじゃない！　茉莉、その子は私の子供じゃない。それはあり得ないんだ。……茉莉、私は先天性無精子症だ」

三上と新田、驚いて一ノ瀬を見る。

一ノ瀬「不妊症の一種だよ。結婚してすぐ、茉莉が子供が欲しいと言った時、私は嬉しかった。だけど子供は一向に出来なかった。茉莉には内緒で、検査したんだ」

茉莉「……」

一ノ瀬「私は心底怖かったよ。茉莉がそのことを知ったら、私から離れて行ってしまうんじゃないかと。だから、茉莉が浮気を繰り返すのも、全て黙認してきた。茉莉のやることをそのまま受け止めることでしか、愛情を示す方法が分からなかった」

一ノ瀬、天を仰ぐ。

一ノ瀬「茉莉に子供が出来たなら、これ以上、茉莉を自分に縛り付けておくことは出来ないと思った。だけど、茉莉がまだ私を必要としてくれるなら、一緒にいたいんだ」

茉莉、じっと三上を見つめる。

茉莉、三上に向かって手を伸ばす。

茉莉「和也君も、一緒にいてくれる？」

三上「……」

茉莉「これからも一緒にいて欲しいの。ずっと一緒にいるって約束して欲しいの。教会ではそう言ってくれたでしょ？　どうして今は言ってくれないの？」

三上「茉莉ちゃん……」

茉莉「私が死んでもいいの？」

三上「いい訳ないじゃん！」

茉莉「子供が死ぬから？」

三上「違うよ！　そうじゃないよ！」

三上、拳を握り締める。

三上「茉莉ちゃん、僕の子供だって言って欲しいんだ」

茉莉「……」

三上「……嘘でもいいよ。僕の子供だって言

って？　そうしたら僕は茉莉ちゃんから一生離れない。誓うよ」

茉莉「それは……、出来ない」

三上「どうして？」

茉莉「この子はみんなの子なの。それが私の中で、唯一の真実なの」

三上「……」

茉莉「私は一生の愛なんて信じない。必要もない。そんなもの無くても、生きていけるもの」

三上「茉莉ちゃんはそれでいいの？」

茉莉「え？」

三上「こんなやり方で得る愛情が、本当に茉莉ちゃんが欲しい物なの？」

茉莉「何が言いたいの？」

三上「こんなのは、本当の愛じゃない。茉莉ちゃん、人は一人の人間から愛情をもらえれば十分なはずだよ」

茉莉「和也君には分からないよ」

三上「人間は、一人の人と深くつながりあう

ことで、初めて愛情を得られるんだ」
茉莉「あなたの価値観でものを言わないで」
三上「茉莉ちゃんが本当に欲しい愛情は、こんな風に脅したり、嘘をついたりして得られるものじゃないはずだ」
茉莉「分かったようなこと言わないで！　あなたには分からない。和也君みたいに、生まれた時からいつも誰かに愛されて育った人には、絶対に分からない」
三上「……」
茉莉「子供の時からずっと不安だった。お父さんもお母さんも、私のことなんて見てない。本当の私を知ろうともしてくれなかったもの」
三上「茉莉ちゃんを愛してくれる人はいる」
茉莉「そんな人、どこにもいない」
三上「いるよ。誰よりも茉莉ちゃんを愛してくれる人。茉莉ちゃんだけを」
茉莉「いないってば！　いい？　私は親にすら愛されなかった人間なの！」

三上「茉莉ちゃん」

茉莉「どうして一緒にいてくれないの？　私はみんなと一緒にいたいの。ずっとずっと、一緒にいたいのに……」

沈黙

茉莉「この子の父親は、和也君よ」

三上、天を仰ぐ。

三上、茉莉を優しく抱きかかえ、窓から降ろす。

三上「茉莉ちゃん、結局僕は、茉莉ちゃんに嘘をつかせることしか出来なかったね」

三上、茉莉の手を握りしめる。

三上、茉莉の手から指輪を抜き取る。

茉莉「和也君……？」

三上「茉莉ちゃん、ごめん。僕はやっぱり、

茉莉ちゃんと一緒にいることは出来ない」
茉莉「和也君！」
三上「茉莉ちゃんを愛してくれるのは、僕じゃない」
茉莉「私を愛してくれる人なんてどこにもいないじゃない！」
三上「いるよ！」
茉莉「いないってば！」
三上「いや、いる！　僕じゃない！　一ノ瀬さんでも、新田さんでもない！　茉莉ちゃんは、もう出会っているはずなんだ」
茉莉「え？」
三上「その子だよ」

三上、茉莉のお腹を指差す。

三上「その子は、他の誰よりも、茉莉ちゃんのことを愛してくれるはずだよ。ううん。きっともう愛してるんだ。それは、僕や、一ノ瀬さんや新田さんのよりも、きっと強

くて、純粋で、大きい愛情なんだ。茉莉ちゃんは自分の手で、一番欲しいものを手に入れたんだよ」

茉莉「……この子が？」

三上「茉莉ちゃんにもきっと分かる。誰か一人から、一途で純粋な愛情を受け取った時、初めて人は心から満たされて、安心出来るんだ。そして、自分も誰かに愛情を与えることが出来る。茉莉ちゃん。その子を大事にしてあげて。きっと、茉莉ちゃんのことを一番大切に思ってくれる人だから」

三上、一ノ瀬と新田に向き直る。

三上「一ノ瀬さん、新田さん。いろいろとご迷惑をおかけしました。茉莉ちゃんのこと……。あの……」

新田「あぁ、分かっとる。俺らは茉莉から離れたりせんから、安心せえ」

一ノ瀬「私もだ。茉莉のことは心配しなくて

いい」

三上「ありがとうございます」

一ノ瀬「三上君、元気で」

三上「お二人も……。さようなら」

茉莉「和也君！」

三上「茉莉ちゃん。さようなら」

茉莉、三上の腕を引っ張る。三上、茉莉の肩を持って、優しく引き離す。三上、ドアに向かって歩き始める。

茉莉「和也君！　待って！」

三上、立ち止まり、振り返る。

三上「茉莉ちゃん、僕と付き合おうと思ったのはどうして？」

茉莉「え？」

三上「最後に聞かせて欲しい」

茉莉「……カズヤ」

三上「え？」

茉莉「お父さんと同じ名前だった。だから、あなたに愛されたいと思ったの」

三上と茉莉、しばし見つめ合う。

三上、手で顔を覆う。

三上、意を決したように病室から出る。

茉莉、ベッドに突っ伏して泣き出す。

茉莉の泣き声が響いている。

三上、廊下で泣き崩れる。

了